



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：アラブ国際産業フォーラム

(5月26日付現地各紙)

アラブ国際産業フォーラムに関する26日付現地各紙の報道の概要は以下の通りである。なお、26日、ハマド首長は、このフォーラムへの参加閣僚（UAE、レバノン、シリア、イラク、トルコ、モロッコ、パレスチナから参加）より表敬を受けた。

1. 25日、第1回アラブ国際産業フォーラムがドーハで開催され、アラブ経済の発展、アラブ圏内投資、アラブ国間の貿易障壁の撤廃について議論された。
2. アティーヤ副首相兼エネルギー・工業相はオープニングにおいて、真のアラブ圏の経済発展を達成する際に、もしアラブ国同士の間に関境線の問題や政治的相違があったとしても、それが経済的なつながりを否定するものであってはならず、経済と政治は分けて考える必要がある、と述べた。
3. アティーヤ副首相は、先進国との協力関係だけではなく、アラブ圏内同士での協力関係構築も始めるべきであり、これがアラブ圏、そして国際間の工業分野の経済的発展を促進するものになると述べた。
4. アラブ圏内の経済関係について、トワイジリー・アラブ連盟事務次長（Dr. Mohammed bin Ibrahim Al-Tuwajiri）は、同圏内の貿易量は1640億ドルであり、メルコスール圏内の2690億ドル、アセアン圏内の9900億ドルに比して非常に小さく、アラブ圏内の経済協力はまだ明確に発達していない、と述べた。また、同次長は、アラブ域内で振興が進む知識産業、科学技術と同様に、工業、農業といった分野にも投資を導くことを考えるべきだと述べた。
5. トワイジリー事務次長は、ナノテクノロジーのような最新技術、アラブ圏内パートナーシップ、商品流通などについても焦点を当てるべきだと述べた。